

臨床医学研究のお知らせ

聖路加国際病院では、将来の医療を向上させるため、臨床医学研究を行っています。つきましてはご理解の上、ご協力をお願い申し上げます。なお、個人情報 は 厳重に管理させていただきます。

研究計画や研究方法に関する資料をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体の目的や進行に支障となる事項以外はお知らせすることができます。ご質問がありましたら下記連絡先にお問い合わせください。

この調査では、ご協力を拒否することも自由です。もし、研究へのデータ・試料の利用を望まない場合は、下記の連絡先までご連絡いただくか、医療スタッフへ申し出てください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

【照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先】

住所：〒104-0044 東京都中央区明石町 9-1

電話：TEL:03-3541-5151

担当者の所属・氏名：消化器内科 山本 和輝

【研究責任者】 聖路加国際病院 消化器内科 山本 和輝

高齢者における大腸カメラ（下部内視鏡検査）の有用性を 評価する研究

1.研究の対象

2009年4月1日から2010年3月31日までに聖路加国際病院予防医療センターを受診し下部内視鏡検査を受けた方。

2.研究の目的・方法

大腸がんは世界中で最も一般的な癌の一つであり、死亡率は第2位と高いです。諸外国ごとに若干の違いはありますが、便潜血検査、S状結腸鏡検査、全大腸内視鏡などが大腸がんのスクリーニング検査として推奨されています。諸外国では隔年の便潜血検査、5年毎のS状結腸鏡検査、10年毎の大腸内視鏡検査をスクリーニングとして推奨しており50歳から75歳までのスクリーニングを推奨しています。

一方、現在の日本の大腸がん検診ガイドラインは、40歳以上に対して一次スクリーニングとして、便潜血検査を推奨しており、便潜血検査陽性者に対して全大腸内視鏡検査による精密検査が行われます。全大腸内視鏡検査の間隔は諸外国より短く、ポリープ摘除後のおおよそ3年毎を推奨していますが、対象年齢を40歳以上とし上限を設けていないのが現状です。今まで一度もスクリーニングを受けていない76歳以上の健康な個人に対するスクリーニングの有用性は報告されていますが、過去にスクリーニング歴のある高齢者においてその有用性は定かではありません。

そのため、今回、私たちは過去にスクリーニング歴のある75歳以上の高齢者における、下部内視鏡検査の有用性を評価するため、本研究を行います。

なお、この調査では通常保険診療以外の医療行為はなく、診療録（カルテ）に記載される内容についての調査のみとなります。

調査期間は研究倫理審査委員会承認後～2025年3月31日までの予定です。

3.研究に用いる試料・情報の種類

年齢、性別、病歴、治療歴、カルテ番号、血液検査、画像検査（超音波検査、CT検査、大腸内視鏡画像）、病理検査など・